

トピックス

石川県建設業協会と工業高校生との意見交換会

建設産業の若年人材確保のための建設産業への若年者の入職促進対策として、(一社)石川県建設業協会は、7月9日(水)に金沢市立工業高等学校において、同校建築科2年生の生徒40名(内女性15名)との意見交換会を開催した。

意見交換会では、当協会からは明齋章宏副会長、岡昌弘雇用対策特別委員長、平櫻保建築委員長、豊蔵享一建設青年委員会副委員長ほか8名が参加し、冒頭に同校の内村博和校長の挨拶に引き続き、明齋副会長が趣旨説明を行った後、建築科生徒と約1時間にわたり意見交換を行った。

当協会からのプレゼンテーションでは、北村常務理事から「工業系高校生の意識調査結果」、豊蔵青年委員副委員長から「会社に入ってからライフサイクル(3年後、5年度、10年後の仕事内容など)」、長坂建設青年委員から「建設産業のIT化等の現状」などの説明を行った。

引き続き意見交換会では、当協会から「建設産業のイメージが危険であると思うか」の問いかけに、ほとんどの生徒がそのようなイメージを持っていることや、「今後、社会人となった時にはコミュニケーションに自信があるか?」の問いかけには、全生徒が自信ないと答えていた。

また、男子生徒からは「建設業で働く人は50代以上ばかりで若者が少ないのでは?」や「大工として木造建築に携わりたいが、会社に入ってから技術面で教えてもらえるのか?」、「大学卒と高校卒とでは就職後に違いは出るのか?」など就職にあたり仕事に対する不安を持っていることが解った。

さらに、女子生徒からは「建設業に就きたいが現場の仕事をするにあたり一番の不安はなにか?」、「設計職を希望してるが、先生から大学に進学してからと言われたがどうですか?」など女性らしい質問がされた。

このような機会を持つことにより生徒の建設産業への不安や心配が少しでも解消され、また、建設産業への就業率のアップや技能職・技術職の人材確保に寄与する有意義な意見交換会となった。



会場風景



内村校長挨拶



明齋副会長挨拶



岡委員長閉会挨拶



プレゼン風景

雇用改善コーナー

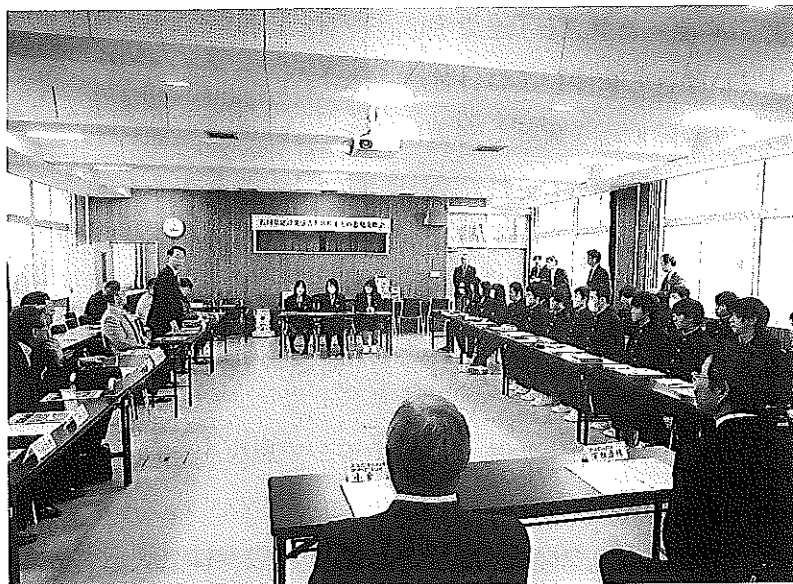
石川県建設業協会と地元高校生との意見交換会の開催

(一社)石川県建設業協会(会長 北川義信)は、12月5日(金)に羽咋工業高等学校を訪問し、建築造形学科の土木コースと建築コースの2年生27名(内女子10名)と意見交換を行った。若年就業者が減少していることから昨年に引き続き2回目の開催となった。

意見交換会には、(一社)羽咋郡市建設業協会の会長でもある小倉 淳当協会副会長、七尾鹿島建設業協会会長の田村行利氏を始め能登地区の各地区協会からも含めて17名が出席した。

最初に、同校の下根浩明校長から「日本のインフラ・ものづくりの基礎を作っている建設業専門の方から直接話を聞ける素晴らしい機会である、自分の進路を決めるために積極的に質問するように」と挨拶があり、引き続き小倉会長から「私たちの仕事は作ったものが子や孫の時代まで残る、これが建設業のほこりである、地域を育てる若者になってほしい」とアピールした。

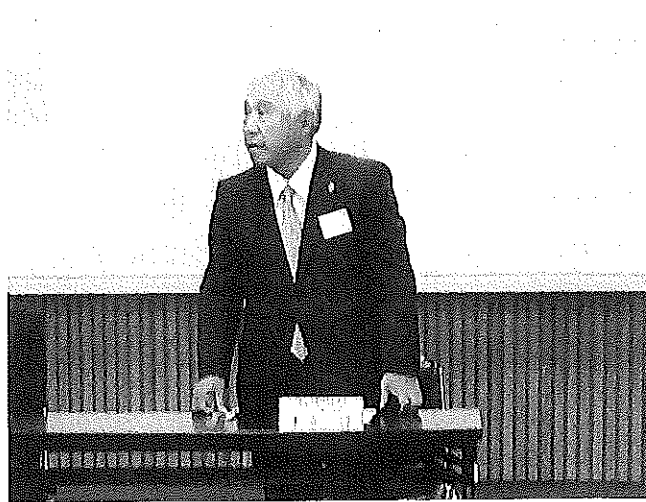
その後、辻専務が、建設産業を紹介し、同校卒業生の悦永京子さん(小倉建設(株))、三井直幸さん(酒井工業(株))から印象に残る和風建築や家屋の次世代工法、入社してからの10年の流れなどを自分の体験を踏まえ建設現場を紹介した。



会場風景



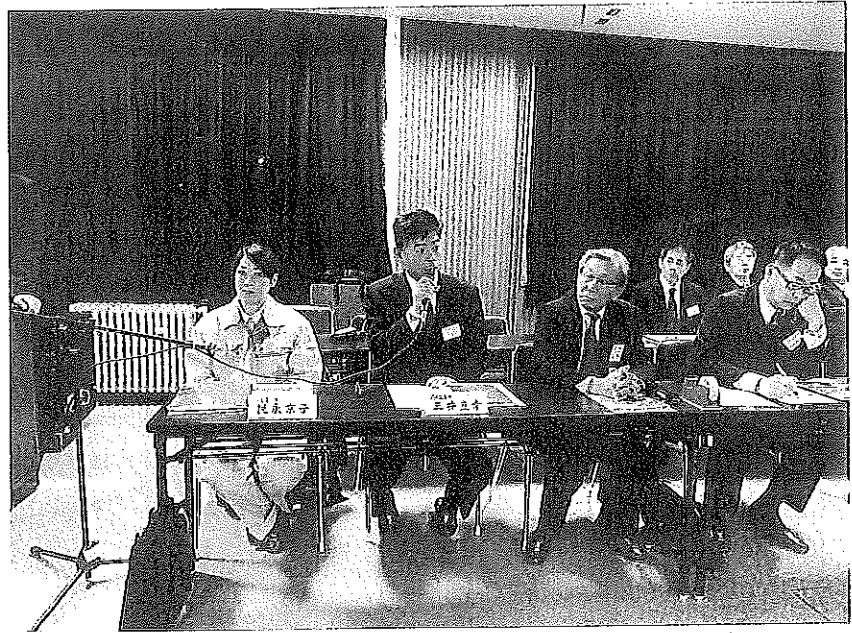
下根校長挨拶



小倉石川県建設業協会副会長挨拶

意見交換では、女子生徒から「女性が建設業で働く際に大変なことは、家庭と仕事の両立ができるか？」については女性青年委員が「育児は家庭に頼る部分があり、男性を始め周囲の理解が必要」と答え、「建設現場における危険性」については「仕事の前に必ず危険個所を確認し対策をとっている」、「給料はどれくらい？」に対しては「会社により異なるが初任給で17～18万円、年齢とともに上がり、資格を取ると給与が上がり、生活に事欠かない給与は出せる」と説明した。「今作ったものは子や孫まで恩恵を受ける、「建設業は未来産業」といえる」との説明もあった。

最後に、田村七尾鹿島建設業協会長から「建設業は（製造業等とは違って）自分のした仕事に（お客さんから）面と向かって「ありがとう」と言われる仕事だ」と挨拶して意見交換会を終えた。



先輩講師